

○丹下大輔議員 権輿会の丹下大輔でございます。

通告に従いまして、議案第88号「令和2年度今治市一般会計補正予算（第6号）」歳出7款1項3目サイクルシティ推進事業費についてお尋ねいたします。

本事業は、今般の新型コロナウイルス感染予防としての3密回避と健康増進のツールとして自転車活用を推進することを目的に、スポーツ用自転車等の購入経費などを助成することとでございますけれども、1点目に、先ほど御説明の本事業におけるスポーツ用自転車の定義を伺います。併せて、2点目、3密回避と健康増進のツールとして、自転車活用の推進を本事業の目的とするならば、一方で、通勤途中でお子様の送迎が必要な方や、一般的に広く流通している自転車と比較して高額なスポーツ用自転車の購入が経済的理由で困難な方もおられます。スポーツ用自転車以外でも3密回避と健康維持増進には大いに寄与すると推察いたしますけれども、助成の対象として、なぜ対象車種を絞り込んだのか、合理的な理由をお示しください。

次に、歳出10款1項2目学校教育充実活性化事業費についてお尋ねいたします。

本市における各小中学校の児童生徒数は、1桁台の学校もあれば、600人を超える児童生徒数を有する学校もあり、これに伴って、各校の教員数や業務量も異なるのは周知の事実であります。今般計画されているスクール・サポート・スタッフの配置は、当然これらを加味されての配置が行われるものと推察いたしますが、具体的な人員の配置計画並びに配置の基準をお示しください。

○堀田順人議長 答弁を求めます。

○菅 良二市長 丹下議員御質疑の議案第88号「令和2年度今治市一般会計補正予算（第6号）」についてのうち、1番目の歳出7款1項3目サイクルシティ推進事業費に関しまして、私からお答えさせていただきます。

本事業は、市民を対象とするスポーツ用自転車及びスポーツ型自転車用ヘルメットの購入助成と、事業者を対象とする自転車駐輪施設等の整備費の助成を行うものでございます。

事業の目的でございますが、国が示す新しい生活様式の中で、3つの密の回避、接触機会の低減などの観点から、自転車の活用が推奨されております。国土交通省においても、企業活動における自転車通勤や業務での利用を拡大するため、本年4月に「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトを開始したところであります。こうした流れを受け、本市におきましても、自転車購入費等の一部助成を行うことで、自転車通勤など新しい生活様式の普及はもとより、本市が本年3月に策定した今治市サイクルシティ推進計画に掲げるサイクルスポーツの振興や、自転車を活用した健康づくりなどの各種施策を推進しようとするものでございます。通勤、サイクリングなど、日常生活の中で多くの市民の皆様が自転車を積極的に利用していただき、共にサイクルシティ今治の推進に御協力いただきたいと思います。

また、御承知のように、昨年11月、しまなみ海道サイクリングロードが国からナショナルサイクルートの指定を受けました。この勢いを加速するべく、本年4月には、その起点となる

サンライズ糸山の拡張整備を終え、さらに昨日、ナショナルサイクルートのゲートウエーとなる今治駅前サイクリングターミナルが供用を開始するなど、誰もが気軽に自転車に親しむことができる環境整備を進めているところであります。

このほか、本議会では、地域の観光資源を巡る「ふるさと魅力再発見の旅」支援事業に係る予算案を併せて上程させていただいております。その際、移動のツールとしても自転車を利用していただくなど、多くの市民の皆様にサイクリングの楽しみをぜひ体感していただきたいと考えております。

その他詳細、その他の御質疑につきましては関係理事者からお答えさせていただきますので、よろしくお願いたします。

○秋山直人産業部長 丹下議員御質疑の議案第88号「令和2年度今治市一般会計補正予算（第6号）」についてのうち、1番目の歳出7款1項3目サイクルシティ推進事業費に関しまして、お答えをさせていただきます。

まず、1点目のスポーツ用自転車の定義についてでございます。

規格の詳細は、日本産業規格（J I S）に定められており、一般用自転車、電動アシスト自転車のうちのスポーティー車等でございます。例といたしましては、中長距離の快適走行を目的とする、いわゆるロードバイク、クロスバイク、マウンテンバイクなどの車種に加え、電動アシスト機能を搭載したイーバイクがございます。今回のスポーツ用自転車等購入費補助金では、タイヤ径が24インチ以下の子供用スポーツサイクル、クロスバイク、ロードバイクなどのスポーティー車、そしてイーバイクの3つを補助対象としております。補助率はともに30%、上限額は、子供用が1万円、スポーティー車が2万円、そしてイーバイクが3万円でございます。

次に、2点目の助成の対象についてでございます。

自転車の車種別の全国的な保有割合につきましては、一般財団法人自転車産業振興協会が平成30年度に発表した自転車保有実態に関する調査報告書によりますと、軽快車が59%、スポーツ車が14%、電動アシスト自転車7.5%となっております。本市としましては、保有割合の低いスポーツ車の普及を促進することで、中長距離通勤者の自動車からスポーツ自転車への乗換えなど、新たな自転車人口の創出と、サイクルスポーツに対する関心の向上を図り、併せて、市民の皆様が今治市内をサイクリングで楽しむサイクルツーリズムを推進してまいりたいと考えております。

以上のように、先ほど市長も申し上げましたサイクルシティ今治の実現に向けて、今治市サイクルシティ推進計画に基づき、助成対象につきましては、本市の独自カラーを打ち出すこととしたものでございます。

以上でございます。

○田坂 敏教育長 丹下議員御質疑の議案第88号「令和2年度今治市一般会計補正予算（第6

号) 」についての2番目、学校教育充実活性化事業費について、私からお答えさせていただきます。

スクール・サポート・スタッフの配置計画と基準についてでございますが、各学校における教員1人当たりの児童生徒数や特別支援学級の児童生徒数、また市で配置している学校生活支援員や学習アシスタントの人数などにより、教員1人当たりの業務量を勘案して、小学校18校、中学校6校の計24校に配置する予定としております。その上で、教員の負担軽減を図れるよう、必要に応じて兼務を行うなど、教員一人一人が児童生徒に向き合う時間の確保に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○堀田順人議長 以上で答弁は終わりました。

再質疑はありませんか。

○丹下大輔議員 議長。

○堀田順人議長 丹下議員。

○丹下大輔議員 先ほどの理事当局の答弁を踏まえて、この後、委員会が開催されますけれども、この議論が委員会にて深まりますことを念じまして、この場では終わらせていただきたいと思います。

以上です。再質疑はございません。